

## はじめに — 読解に必要な3つのこと

書店に行けば、英文読解の参考書は山のように積み上げられています。  
「<sup>おくじょうおく</sup>屋上屋<sup>か</sup>を架す」という言葉があります。屋根の上にさらに屋根を架けること、すなわち、無駄なことをするとえとして用いられます。私たち著者は、そのような愚を犯そうとしているのでしょうか。

私たち三人は予備校講師として、長いこと教壇に立ってきました。その間、おびただしい数の読解問題を解析し、それらについてさまざまなアングルから解説してきました。日々、数多くの受験生と接してもいます。どこでつまづいたのか。どうして勘違いしたのか。そのような声に耳を傾けてきました。そこで気づいたことがあります。それは文法力も語彙力も同じなのに、「読解」できる生徒とそうでない生徒に分かれるということです。

なぜこのようなことが起こるのでしょうか。

読解ができない生徒は、間違いなく「論理展開を意識した英文の読み方」を知りません。そうした生徒は、文法を習得し、単語や熟語を増やせば、おのずと英文が読めるようになる信じ込んでいます。そればかりか、読解参考書の多くもまた、文法力と語彙力の重視だけを力説しています。たしかに短い英文ではそれが可能でしょうし、文法力と語彙力が読解に欠かすことができないのは言うまでもありません。しかし、それだけでは、パラグラフの多い難関大の長文になると、とたんに太刀打ちできなくなってしまいます。これは、語彙力の欠如だけでなく、トピックにおける背景知識の欠落、そして論理展開とパラグラフ（段落）の関係についての認識不足から起こる現象です。

本書の目的は、①語彙力を増強し、②時事問題への関心を喚起し、③「パラグラフ・リーディング」という技法を習得し、それによって読解力を高めることにあります。最後までやり抜けば、きっと長文の「読み方」のコツがわかるはずです。と同時に、得点力も必ず上がることでしょう。本書が、英文と格闘するみなさんを見守る堅固な屋根になることを確信しています。

健闘を祈ります。Happy reading!

\* \* \*

最後になりますが、研究社編集部の方友里菜さんと中川京子さんには、企画立案から校閲作業まで大変丁寧にサポートしていただきました。また、キャサリン・クラフト (Kathryn A. Craft) さんには、ネイティブスピーカーの観点から英文のチェックをきめ細かくしていただきました。お三人のおかげで、本書はやっと日の目を見ることができました。心より感謝いたします。

石橋草侍 里中哲彦 島田浩史

## 目次

はじめに	ii
本書の特徴と学習の手引き	iv

### 英文読解以前——解くための12の技法

- ①「パラグラフ・リーディング」とは／
- ②「主題文の位置」と「筆者の伝えたいこと」／
- ③「パラグラフの展開」と「論理の標識」／④〈譲歩の標識〉／
- ⑤〈逆接の標識〉／⑥〈対比の標識〉／⑦〈因果の標識〉／
- ⑧〈言い換えの標識〉／⑨〈追加・列挙の標識〉／⑩〈例示の標識〉／
- ⑪〈結論・要約の標識〉／⑫〈主張の標識〉

### 解答・解説

第1講	24
第2講	38
第3講	54
第4講	71
第5講	88
第6講	104
第7講	121
第8講	138
第9講	154
第10講	170
第11講	187
第12講	207

データに基づく頻出の単語知識	225
----------------	-----

### コラム

難関大で狙われる対義語① 名詞	51	頻出の類義語② 動詞 2	151
難関大で狙われる対義語② 形容詞	68	頻出の類義語③ 名詞	167
難関大で狙われる対義語③ 動詞	85	頻出の類義語④ 形容詞	184
頻出の対義語 形容詞	101	お金に関する名詞	204
頻出の類義語① 動詞 1	135	人類の進化に関する単語	222

## 本書の特徴と学習の手引き

### 本書で学べる4つのこと

#### その1 パラグラフ・リーディングの考え方を英文読解以前で学べる

「英文読解以前」(p.1~23)では、パラグラフ・リーディングの考え方や、論理の展開を決定する数多くの表現に触れ、語彙や文法ばかりでない新たな角度から英文をとらえる視座を養うことができる。

#### その2 経験豊富な河合塾講師陣のオリジナル問題で学べる

全12講の問題は、難関大学で出題された英文を利用しながらも、現時点の実力を測るのではなく、これからの実力をあげることを目的とした、本書オリジナル問題のみで構成されている。河合塾の全国模試に深くかかわってきた講師陣が、難関大学の問題を精査し、私立・国公立大を問わず高得点を狙うために必要なレベルの問題を作成した。また、「英文読解以前」で学んだことが自然と身につくような問題を意識して収録している。

記述式問題では、採点基準が明示されており、自己採点をしたり、求められているのは何か、自分に足りないのは何か、を知るうえで活用できる。

#### その3 解く視点で入試問題の解法を学べる

問題を解いたあとに読む各講の「解説」では、各問に詳細な説明があるばかりでなく、「解く視点」というコーナーが設けられ、その問題の解き方や考え方、出題者の意図などを学ぶことができる。このコーナーでは、「内容一致問題」や「整序問題」のように、問題形式別の実践的なアドバイスも載せられている。

#### その4 入試長文の内容はこれだ！で頻出のテーマの背景知識を学べる

出題文の中で扱われた英文のテーマに関する背景知識と、そこで使われる英語表現を学習するために、「入試長文の内容はこれだ！」というコーナーが12講すべてにおいて設けられており、同様のテーマの英文読解に万全の準備ができる。

## 学習のすすめ方

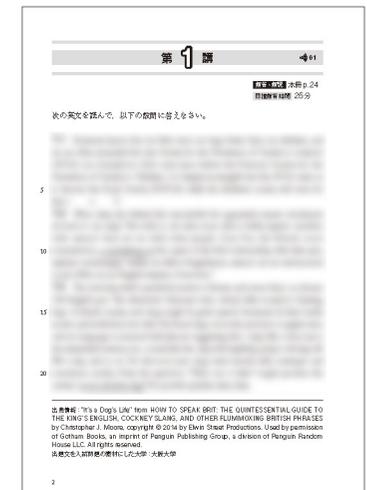
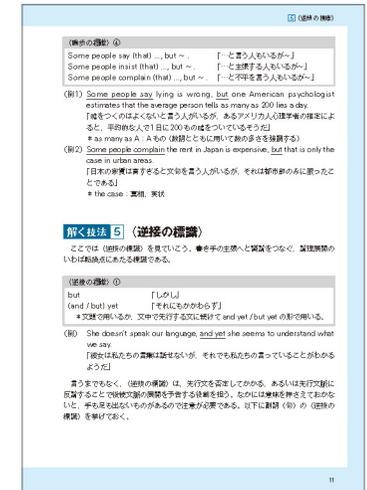
### 手順1 ▶▶ 「英文読解以前」を読む

「英文読解以前」では、「主題文がどこに置かれるか」という実践的な話や、say「たとえば」〈例示〉, namely「すなわち」〈言い換え〉, at the same time「それでもやはり」〈逆接〉などのように、英文の論理展開を決定する数多くの表現が紹介され、パラグラフ・リーディングの基本と論理展開の目印となる表現を学べるようになっていく。出題者はそうした論説文の特徴や言葉の機能を利用して問題を作成することが多いので、まずこれらの情報に触れておきたい。

これらの情報は、問題を解く前に触れ、問題の中で遭遇し、採点や解説内でその重要性を実感し、再び「英文読解以前」へ戻って確認するというサイクルを通じて身につけていくものなので、最初からすべてを頭に叩き込まなければならないとは考えず、「くりかえし復習して長く付き合う」という姿勢が望ましい。

### 手順2 ▶▶ 別冊の問題を解く

問題を解く準備として、第1講では「英文読解以前」の内容を、第2講以降はそれに加えて前講までの問題や解説で学んだことを確認しておこう。本書はみなさんに長文の読み方や問題の解き方を身につけてもらうことを一番の目的としているため、ある講で出題された項目や考え方が、別の講でまた試されるといった仕掛けもある。



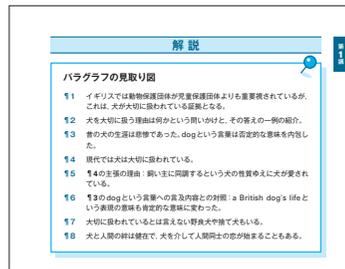
問題の中には、記述式問題もある。記述式問題での文字数に関する本書での決まりは以下の通りである。大学によって基準は微妙に異なるものの、以下のように考えておけば、問題は生じない。

- ① 設問の文言に明示されていなくても、「句読点やかっこ類は文字数に含む」(「」で2文字とする)ものとする。
- ② 設問の文言を以下のように解釈する。  
「○○字以内の日本語で説明しなさい」  
⇒○○字を超える場合や、逆に90%に満たない場合は得点が与えられない。  
「○○字程度の日本語で説明しなさい」  
⇒○○字の10%を超過または下回る場合は得点が与えられない。

なお、解答の制限時間は講ごとに異なるので注意しよう。

**手順3 ▶▶ 自己採点を行ない、解説を読んで理解する**

「解答・解説」は問題数に対応して12講からなる。それぞれの講の冒頭には解答が示されているので、記述式問題以外はここで採点をしてしまおう。



そのあとには「パラグラフの見取り図」というコーナーがある。これは各パラグラフの主題や、それぞれのつながりを示すものなので、問題を解き終えたばかりの段階で、自分が考えていた内容と比べたり、文の大意や論理展開をチェックしたりしよう。この作業をあらかじめ行なうことで、そのあとの解説がより理解しやすくなる。

設問ごとの解説部分では「解く視点」コーナーがあり、その問題のとらえ方、出題者の意図、同様の問題を解くうえでの指針などが学べる。

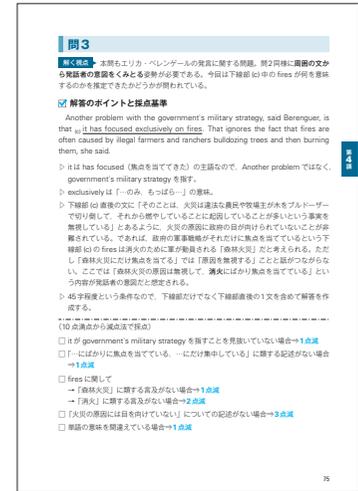
続いて解説が始まるが、この問題集に易しい問題は1つもないので、どうしてそのような答えになるのかが納得できるまでこの解説に向き合ってほしい。

記述式問題は解説のあとに採点基準が示される。この順番を採用したのは、文の内容や解答に求められていることを理解してから自己採点することで、解答に盛り込むべきことや、自分の答えに足りない点は何かをより深く認識できると考えているからである。減点方式で採点することになるが、減点の大きさとその項目の重要度は一致していると判断しよう。

和訳問題や、その他必要と判断した箇所には右のような英文の構造図を載せている。そこで使われる記号は次の通りなので、あらかじめ目を通しておいてほしい。

構造図で用いられる記号

[   ]	: 名詞句・名詞節
(   )	: 形容詞句・形容詞節
<   >	: 副詞句・副詞節
SVOC	: 主節の要素
S' V' O' C'	: 従属節の要素
S'' V'' O'' C''	: 節中のさらに細かい要素



手順4 ▶▶ 全文訳・語句チェックで復習をする

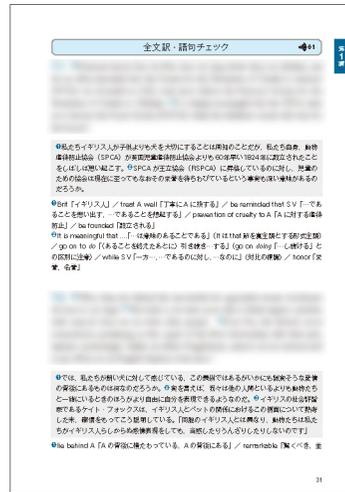
原文および全文訳は、パラグラフ単位でまとめられ、1文1文に対応する番号が付されている。さらにそこで使われている単語・熟語・構文などが全文訳の下にまとめられている。

難しい英文を短いテスト時間内で解いたというだけでは、英文をスラスラと読める力は養成されない。「英文読解以前」や「解答・解説」の段階を経て、文の大意、各パラグラフのつながり、問題のポイント、さらには出題者の意図などを知ったうえで、原文を改めて読みかえすところ、読解力・得点力を高める一番の秘訣である。やや大きめに言えば、「英文読解以前」を読むことも、問題を解くことも、解説を読むことも、「いろいろとわかった状態で原文を改めて読むための準備作業にすぎない」のである。

原文を読みながら、「英文読解以前」で学んだことや解説で知ったこととすり合わせたり、文構造などをチェックしたりしよう。最初は時間がかかるが、2度、3度と同じ文をそうして読んでいくと、筆者がさまざまな技法を駆使して自分の主張を伝えようとしていることや、それがどこに書かれているかなど、高点数を取るために必要なことが驚くほどわかるようになる。そうして身につけた読み方は、別の文を読むときにももちろん通用する。その読み方を身につけるのがみなさんの一番の願いだろう。

いろいろとわかった状態で原文を読みかえすことには数えきれない効用があるが、もう1つ挙げるならば、語彙力を増強しやすいということである。「内容の理解に苦しんでいる状態ではあるが、語彙だけはとてもよく頭に残る」ということにはならず、「最初は内容がよくわからなかったけれど、解説等で理解できた。すると内容の理解に後押しされてより多くの語彙が身についた」が自然なのである。

「全文訳・語句チェック」も「英文読解以前」と同じく、1度目を通して終わりとするのではなく、「長く何度も向き合う」姿勢を貫こう。その際、理解した原文を見ながら時には音読したり、ネイティブスピーカーの読み上げを聞くのは、読解力、語彙力のさらなる向上に役立つ。本書では音声ダウンロードできるので利用してほしい。ダウンロードの手順は後述する。



手順5 ▶▶ 「入試長文の内容はこれだ！」を読み、頻出テーマに親しむ

「入試長文の内容はこれだ！」は、各講の英文のテーマについての気軽な読み物であり、知っている英文が理解しやすくなる項目、歴史的経緯、こぼれ話などが短い日本語で書かれている。重要な表現には英語の単語やフレーズが併記されており、次に同じテーマの英文を読むときや、英作文を書くときなどに大いに役立つであろう。



手順6 ▶▶ 解き直しをする

1~5の手順で学習したら、そのあとに同じ問題の解き直しをやろう。素晴らしい解答ができるはずだ。「1度解いて答えを知っているから」以外の要因が大きいことを実感するであろう。

とはいえ、復習・解き直しを終えなければ次の問題に進んではいけないというものではない。問題は中盤の講を進めているときに、復習は前半を進めるといったような緩やかな同時進行でよいだろう。

①The new software promised streamlined efficiency and improved productivity. ②On the other hand, it introduced complexities in user interface, potentially slowing down workflow.

Notes | ①streamlined 「合理化された」 ②user interface 「ユーザー・インターフェース、利用者がコンピュータを操作するうえでの環境、コンピュータ機器の使い勝手」 / workflow 「ワークフロー、業務（仕事・作業）の流れ」

訳 ① その新しいソフトウェアは、合理化された効率のよさと生産性の向上を約束するものであった。② 他方、それはユーザー・インターフェースの複雑さをもたらし、ワークフローを遅延させる可能性があった。

②内の on the other hand という〈対比の標識〉に着目すれば、それまでの英文内容（＝新しいソフトウェアの肯定的イメージ）とは違う内容が展開されるのだと予測できる。いくつかの単語がわからなかったとしても、〈対比〉のイメージからある程度、類推することも可能になる。

以下に、論理の標識の代表的なもの、そのイメージと意味内容についてまとめておこう。

種類	イメージ	意味／内容
逆接	A ⇔ B	A であるが、B である。
因果	A → B / B ← A	A が原因・理由となって、B という結果・結論になる。
対比	A : B	A である、その一方で B である。
追加	A + B	A である、さらに B である。
言い換え	A = B	A を言い換えると B である。

速読できる学生、すなわち難関大合格者の共通点は、論理の標識で文章の流れを把握し、それによって「パラグラフの展開」を読み取っていることだ。このことを重ねて強調しておきたい。

## 解く技法 4 〈譲歩の標識〉

「論理の標識は、後続文脈の展開の方向性を示す表現である」ことは先に述べたとおりである。ここからは個々の標識について詳しく見ていくことにする。

まずは〈譲歩の標識〉から始めよう。「…ということはあるのだが」に相当する表現である。その接続詞を用いた代表例は、次の5つである。

### 〈譲歩の標識〉①

though / although	「…だけれども」
even though	「たとえ…ではあっても」
even if	「たとえ仮に…だとしても」
形容詞 [副詞] + as S V	「…であるけれども」
whether A or B	「A であろうと B であろうと」

〔例1〕 Though people are trying hard to reduce carbon emissions, the world's temperature is still rising.

「二酸化炭素の排出を減らそうとして懸命な努力がなされているが、世界の気温は依然として上昇している」

\* carbon emissions : 二酸化炭素の排出

〔例2〕 Young as she is, she is running a company that designs necklaces.

「若いけれども、彼女はネックレスをデザインする会社を経営している」

\* run A : A を経営する

〔例3〕 Whether by accident or by design, we met there again.

「偶然であろうと意図的であろうと、我々はそこでまた会った」

前置詞として機能する〈譲歩の標識〉もある。以下に列挙しよう。

### 〈譲歩の標識〉②

despite A / in spite of A	「A にもかかわらず」
for all A	「A にもかかわらず」
with all A	「A にもかかわらず」
notwithstanding A	「A にもかかわらず」

〔例1〕 In spite of significant advancements in space exploration technology, the quest to understand the origins of the universe remains an elusive endeavor.

「宇宙探査技術において重要な意味をもつ進歩にもかかわらず、宇宙の起源を理解するための探求は、依然としてとらえどころのない試みの域にある」

\* elusive : とらえどころのない、理解しにくい endeavor : (努力を伴う) 試

# 第1講

## 解答・解説

問題 別冊 p.2

### 解答

50点満点 問4, 5の採点基準は解説内を参照。

- 問1 (ウ) (4点)
- 問2 (ア) (5点)
- 問3 (エ) (5点)
- 問4 本性というものは、こうした態度を正当化するのに十分な証拠を与えてくれるように思われる。数えきれないほどの逸話は犬が不思議なほど深く飼い主に同調していることを示唆しているし、観察者の中には自分の犬が超能力を持っていると信じている者もいる。(15点)
- 問5 イギリスの犬の生涯という表現の意味は徐々に変化して、現在では甘やかされて快適な暮らしをしていることを意味するということ。(60字)  
(15点)
- 問6 (1)(イ) (2)(エ)(各3点×2)

あなたの得点  
/ 50

## 解説

### パラグラフの見取り図

- ¶1 イギリスでは動物保護団体が児童保護団体よりも重要視されているが、これは、犬が大切に扱われている証拠となる。
- ¶2 犬を大切に扱う理由は何かという問いかけと、その答えの一例の紹介。
- ¶3 昔の犬の生涯は悲惨であった。dogという言葉は否定的な意味を内包した。
- ¶4 現代では犬は大切に扱われている。
- ¶5 ¶4の主張の理由：飼い主に同調するという犬の性質ゆえに犬が愛されている。
- ¶6 ¶3のdogという言葉への言及内容との対照：a British dog's lifeという表現の意味も肯定的な意味に変わった。
- ¶7 大切に扱われているとは言えない野良犬や捨て犬もいる。
- ¶8 犬と人間の絆は健在で、犬を介して人間同士の恋が始まることもある。

### 問1

**解く視点** 英文の展開を考えるうえで、**論理の標識への着目**は必須である。本問ではwhile「一方で」という〈対比の標識〉を用いて解答したい。

選択肢の訳 (ア) cruelty 「残酷さ」 (イ) breakup 「解散」  
(ウ) honor 「荣誉」 (エ) prevention 「予防」

出題文5行目(第1パラグラフ)のwhileは〈対比の標識〉である。〈対比の標識〉で結ばれた2つの文は、互いに対照的な内容になる。前文で「SPCAはRoyalの称号を得た」とあることから、それと対比されたthe children's society(ここでは英国児童虐待防止協会)はまだRoyalの称号は得ていないことが想定される。Royalの称号を得ることがどのようなことを表す選択肢を選べばよい。(ウ)だとthat honor「そうした荣誉=Royalの称号を得ること」を待ちわびているという内容になり論理的に筋が通る。

しい訳語の選択には、語彙力と文脈の把握が欠かせない。

S Nature v seems to provide O plenty of evidence (to justify this attitude).  
S Endless anecdotes v suggest O [that S dogs v are ① strangely and ② deeply  
C attuned (to their owners)], (with some observers believing [their S pets  
v have O psychic powers]).

※ ( ), [ ], < > などの構造図の記号は vii ページ参照

### ✔ 和訳のポイントと採点基準

- ▷ nature は多義語で「①自然 ②(生まれ持った)性質、本性」などの意味がある。今回の文では前後の文と意味内容がつながるように訳語を慎重に選択する必要がある。22~23行目(第4パラグラフ)に the British treat dogs with huge affection (イギリス人が大いなる愛情をもって犬と接している)、またその直後の文には The British adore the legendary image of a dog's faithfulness and literal doggedness. (イギリス人は、犬が忠実で、文字どおりの辛抱強さを備えているという伝説的なイメージをこよなく愛している) とあることから、this attitude とは「イギリス人の犬に対する愛情深い態度」であると判断できる。下線部 (d) 2文目には「犬が不思議なほど深く飼い主に同調している」とあり、これがイギリス人が犬に愛情深い態度をとる理由だと考えられる。「飼い主に同調する」のは「犬の生まれ持った性質」の1つであるといえる。これらのことから、nature は「(犬の) 性質、本性」と捉えなければならない。
- ▷ plenty of evidence to justify this attitude の to 不定詞は、evidence を修飾する形容詞用法。「こうした態度を正当化するのに十分な証拠」の意味。
- ▷ 下線部 (d) 2文目の suggest に続く that 節内の動詞は are なので、この suggest は「…だと示唆する、示す」の意味。「…するよう提案する」の場合には that 節内の動詞が原形または助動詞 should を伴う形となる。
- ▷ be attuned to A は「A に同調している」の意味。
- ▷ 下線部 (d) 2文目の with は「付帯状況の with」の用法で、with A B 「A が B (の状態) で、A が B なので」の意味。通例、A と B との間に be 動詞が入れられる関係にあり、周辺文の補足説明の働きをする。

... with A some observers B believing their pets have psychic powers.  
 「観察者の中には自分の犬が超能力を持っていると信じている者もいる」

.....  
 (15点満点から減点法で採点)

□ nature の訳語が正しくない場合⇒5点減

- 「こうした態度を正当化するのに十分な証拠」の訳出ができていない場合⇒1点減
- 「犬が不思議なほど深く飼い主に同調している」の訳出ができていない場合⇒2点減
- suggest that S V 「…だということを示唆している」の訳出ができていない場合⇒1点減
- 「観察者の中には自分の犬が超能力を持っていると信じている者もいる」のように、付帯状況の with を見抜いた訳ができていない場合⇒4点減
- 単語の意味を間違えている場合⇒1点減

## 問5

**解く視点** 下線部 (e) に含まれる **that** の指示内容を問う問題である。以下の順で考える。

①指示内容を明示する英文を探す。②字数制限があるので、指示内容部分をすべて盛り込むか、そうでなければどこを削りどこを要約するか、を決める。

### ✔ 解答のポイントと採点基準

- ▷ まず that の指示内容を明示する英文を探す。that は前に述べたものを指す代名詞であることから、直前の the sense of the phrase has gradually changed and now means to have a cosseted and comfortable existence, rather than the opposite. (その表現の意味するところがしだいに変わってきて、現在では、正反対よりはむしろ甘やかされて快適な暮らしをしていることを意味する) の部分と考えられる。女王陛下の飼い犬ならばこの内容に同意するであろう。
- ▷ 次に the phrase が何を指すのかを考えると、そのさらに前の a British dog's life ではないかと推測できる。第3、4パラグラフで述べられた犬の置かれた立場の変化に伴って a British dog's life (イギリスの犬の生涯) という言葉の意味も変わるはずだからである。したがって、the sense of the phrase は「イギリスの犬の生涯という表現の意味」となる。
- ▷ rather than the opposite (正反対よりはむしろ) の部分は、「イギリスの犬の生涯」という表現の意味が「悲惨な」から正反対の「幸せな」という意味に変わったというよりむしろ「甘やかされた」という意味になったことを示している。ただし、A rather than B 「B というよりむしろ A」という表現は、一般に重要情報が A にくることから、字数制限のある本問では rather than the opposite の部分は解答に盛り込まない。
- ▷ 本問に限らず、条件の文字数が「〇〇字以内」であればその9割以上、「〇〇字程度」であればその上下1割以内を目安としよう(学習のすすめ方 vi ページ参照)。

(15点満点から減点法で採点)

- 「イギリスの犬の生涯という表現」という内容が盛り込まれていない場合⇒7点減
- 「…の意味が徐々に変化している」という内容が盛り込まれていない場合⇒2点減
- 「甘やかされて快適な暮らしをしていることを意味する」という内容が盛り込まれていない場合⇒4点減
- 単語の意味を間違えている場合⇒1点減

## 問6

**解く視点** (2)で登場している論理の標識には習熟しておきたい。

選択肢の訳

- (1) (ア) centering on 「…に(話題が)集中して」
- (イ) reflecting on 「…について深く考えて」
- (ウ) complaining about 「…について文句を言って」
- (エ) lamenting over 「…を嘆き悲しんで」

ponder on Aは「Aについて熟慮する」という意味であり、正解は(イ)となる。ponder on Aの意味を知らなくても、次のように考えると類推が可能である。下線部(1)のpondering onは分詞構文で、意味上の主語は文の主語のKate Foxと同一なので省略されている。Kate Foxが動作の主体とはならない(ア)は間違い。また11~12行目(第2パラグラフ)の“unlike our fellow Englishmen, animals are not embarrassed or put off by our un-English displays of emotion.”(同胞のイギリス人とは異なり、動物たちは私たちがイギリス人らしくらぬ感情表現をしても、当惑したりうんざりしたりしないのです)という発言内容から、(ウ)と(エ)だと前後関係がつかない。

- (2) (ア) All told 「合計で」
- (イ) Hence 「したがって」(因果の標識)
- (ウ) Identically 「同一で、寸分たがわず」
- (エ) At the same time 「それでもやはり」(逆接の標識)

正解するには内容の把握と熟語の知識の両方が必要。第7パラグラフでは「野良犬や捨て犬が数多くおり、必ずしも犬が愛されているという一般的なイメージ通りではない」という内容を、一方で第8パラグラフでは「人間と動物(犬)との絆を示し続ける表現がある」と逆の内容を述べているので、両者をつなぐ第8パラグラフ冒頭のAll the sameが逆接を示すと判断できるだろう。この場合のAll the sameは「それでもやはり、しかし同時に」の意味で(逆接の標識)である。よって同じはたらきをする(エ)を選ぶ。



① 私たちイギリス人が子供よりも犬を大切にすることは周知のことだが、私たち自身、動物虐待防止協会(SPCA)が英国児童虐待防止協会よりも60年早い1824年に設立されたことをしばしば思い起こす。② SPCAが王立協会(RSPCA)に昇格しているのに対し、児童のための協会は現在に至ってもなおその栄誉を待ちわびているという事実も深い意味があるのだろうか。

① Brit「イギリス人」/ treat A well「丁寧にAに接する」/ be reminded that SV「…であることを思い出す、…であることを想起する」/ prevention of cruelty to A「Aに対する虐待防止」/ be founded「設立される」

② It is meaningful that ...「…は意味のあることである」(Itはthat節を真正主語とする形式主語) / go on to do「(あることを終えたあとに)引き続き…する」(go on doing「…し続ける」との区別に注意) / while SV「一方…、…であるのに対し、…なのに」(対比の標識) / honor「栄誉、名誉」



① では、私たちが飼い犬に対して感じている、この異例ではあるがいかに誠実そうな愛情の背後にあるものは何なのだろうか。② 実を言えば、我々は他の人間というよりも動物たちと一緒にいるときのほうがより自由に自分を表現できるようなのだ。③ イギリスの社会評論家であるケイト・フォックスは、イギリス人とペットの関係におけるこの側面について熟考した末、確信をもってこう説明している。「同胞のイギリス人とは異なり、動物たちは私たちがイギリス人らしくらぬ感情表現をしても、当惑したりうんざりしたりしないのです」

① lie behind A「Aの背後に横たわっている、Aの背後にある」/ remarkable「驚くべき、並

／ according to A 「A によれば」

④ preindustrial 「産業革命前の」／ identify A 「A を明確にする, A を特定する」／ so-called 「いわゆる」／ A such as B 「B のような A」〈例示の標識〉／ chore 「雑用」(通例, 複数形 chores の形で用いる)／ prayer 「祈り」

⑤ segmented 「区分けされた」／ be shed 「捨て去られる, 取り除かれる」／ by A 「A までには」／ likely (副) 「おそらく」／ due to A 「A が原因で」〈因果の標識〉／ artificial lighting 「人工による照明」／ societal 「社会の, 社会的な」／ view 「見解」／ equate A with B 「A と B を同一視する」／ productivity 「生産性」／ prosperity 「繁栄」

⑥ yet 「それにもかかわらず」〈逆接の標識〉／ persist 「存続する」(persistent 「(ものごとが)いつまでも続く」)／ spontaneously 「自発的に, 自然に」／ echo 「反復, 繰り返し, 名残」／ dominant 「支配的な」／ literally 「文字どおり, 実際に」／ thousands of A 「数千もの A」

### コラム 人類の進化に関する単語

- prehistoric 「有史以前の (文字で書かれた記録・文献が存在する以前の), 先史の」
- historian 「歴史家 (有史の範囲内を研究. 記録, 文献を主な考察対象とする)」
- archaeologist 「考古学者 (有史以前の人類の文化を研究. 遺跡, 遺物, 遺構を主な考察対象とする)」
- anthropologist 「人類学者」
- excavate 「…を発掘する」
- remains 「遺跡, 遺物」(複数形であることに注意)
- shell mound 「貝塚」
- earthenware 「土器」
- flint (stone) 「火打ち石」
- hand axe 「手斧」
- nutrition 「栄養」
- tree 「樹形図」
- primate 「霊長類 (いわゆるサル全部)」
- ape 「類人猿 (霊長類のうち特にヒトに近縁なもの)」
- modern humans 「現代の人類, 現生人類 (ホモ・サピエンス)」
- wear of teeth 「歯の擦り切れ (原始人の遺体の年齢推定の目安)」
- precede 「…の先に来る, …に先行する」
- unprecedented 「先例のない」
- perish 「滅びる」
- extinguish 「…を絶滅させる」
- inherent 「固有の, 生まれつきの」
- barbarian 「野蛮人」
- ritual 「儀式」 (= rite)
- bury 「…を埋葬する」
- prosperity 「繁栄」
- epoch 「(画期的な) 時代, 新時代」
- threshold 「発端」
- cradle 「発祥地, (文明の) ゆりかご」
- outset 「最初, 発端」
- dawn 「夜明け, 始まり」

## 入試長文の内容はこれだ!

### 睡眠の科学 (Science of Sleep)

#### ● 睡眠中も活動している脳

睡眠は, **疲れた脳** (a tired brain) を休ませるだけの「**ダウンタイム**」(downtime) なのだろうか。実際, **脳は睡眠中も働いている** (While you sleep, your brain is working.)。睡眠中は, **心拍数** (heart rate) が減り, **血圧** (blood pressure) が下がり, **脳波** (brain wave) に変化が起きるが, 脳はその活動を停止させていないことがわかっている。

#### ● レム睡眠とノンレム睡眠

睡眠をとると, **日中蓄積した有害な老廃物を取り除き** (remove the harmful products which have accumulated during the day), **筋肉の損傷をいやし** (repair damage to muscles), **エネルギーを蓄え** (store up energy), **免疫力を高める** (boost one's immunity) ことができる。

睡眠には, **レム睡眠** (REM sleep) と**ノンレム睡眠** (non-REM sleep) の2種類があり, ノンレム睡眠から始まっておよそ90分単位で, レム睡眠とノンレム睡眠の**周期** (cycle) を4, 5回繰り返している。レム睡眠では脳が活発に動いており, **記憶の整理や定着** (organizing and committing to memory) が行なわれ, ノンレム睡眠では脳や肉体の**疲労回復** (recovery from exhaustion) のための活動がなされている。

#### ● 睡眠がもたらすもの

私たちが睡眠をとるのは**身体組織** (body tissues) や**脳細胞** (brain cells), とりわけ**神経系の細胞** (the cells of the nervous system) を回復するためであるということが研究によってわかっている。

また, 最近の研究では, **血管から免疫系まで** (from vessels to the immune system), あらゆるものが睡眠を**修復のための時間** (a time for repair) として利用しているということが報告されている。

#### ● 睡眠時間と睡眠負債

**睡眠時間** (sleeping hours / amount of sleep) の**絶対的な基準** (absolute standard) はない。睡眠は**体質** (constitution), **性別** (sex), **年齢** (age) などの**個人的な要因** (personal factors) に影響されるからである。成人および高齢者は**ひと晩に7, 8時間の睡眠** (seven or eight hours of sleep each night) をとったほうがよいとされる。**個人差の幅** (a range of individual differences) があるとはいえ, アメリカでの**大規模調査** (large-scale survey) によると, 睡眠時間が7時間の人が最も**死亡率** (mortality rate) が低く, また**長寿** (longevity) の傾向があった。

一方, 何週間, 何カ月, あるいは何年にも及ぶ**睡眠不足** (lack of sleep) が蓄積さ